

令和8年度10月入学

令和9年度 4月入学

大学院入学試験概要

生物資源環境学研究科

【博士前期（修士）課程】

一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜



石川県立大学

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

本学大学院は、生物とその生命現象、農学と農業生産について深く学び、人類が現在直面する諸課題、生命、資源、食料、環境について、問題点を実践により理解し、自ら解決する意欲を持つ学生を求めています。人と自然環境、人と生物、生物と自然環境、それぞれの間にある関わり合いを科学的に探求し新しい理念を打ち立て、それを地域社会へと還元し役立てる。そのような高い志をもち、清新、闊達、進取の気運に満ち溢れた若人が集うことを、望んでいます。

【博士前期（修士）課程】

生産科学専攻

動植物の生理と生態を、集団、個体、細胞、遺伝子レベルで理解し、バイオテクノロジーなどの先端科学技術を活用して、生物資源が持つ有用機能を利用する生産技術の開発などについて教育と研究を行います。知識の習得に加え実験実習等を取り入れた総合的な教育研究を通じて、企業的農業経営者や地域農業の担い手の育成および自然・経済資源の最適利用とそのため制度・政策形成に資する専門的な能力を獲得することなどを目指します。このような目的に対し高い意識を持って「自ら目標を設定し、問題を見つけ出し解決していく能力を育む」ことに積極的な、そして生物の存続・持続や多様性を維持し、生態系や社会経済制度とバランスのとれた生物生産・食料増産に取り組む高度専門技術者、研究者を目指す、高い志を有する人材を求めます。

環境科学専攻

自然と人間が共生・共存する持続的な地域社会の実現を目的とした教育と研究を行います。土壌・水・大気等の基盤的環境、生物的・社会的環境についての研究を行い、自然環境の保全と修復、自然環境と調和した農業や地域資源の利活用を実現できる幅広い視野と豊かな創造力、的確な判断力を有する高度な専門技術者、研究者を養成します。これらの目標に向かって高い志を有して自己研さんできる人材を求めます。

食品科学専攻

人と生物、人と自然との共生の理念に基づき、バイオテクノロジーなどの先端技術を活用し、食品の新しい製造・流通技術の開発、安全で安心な食の確保や食品機能の解析による健康の維持増進を発展させるための教育と研究を行います。食品に関する専門的な知識と技術を備え、産業界の研究開発部門などで活躍できる高度専門技術者、研究者の養成を目指します。目標を持って研さんする志があり、挑戦の精神がみなぎる人材を求めます。

応用生命科学専攻

最新の高度なバイオサイエンスに関する知識、バイオテクノロジーの先端技術、植物や微生物による生物生産、環境保全、エネルギー生産などについて教育と研究を行います。バイオサイエンス、バイオテクノロジーの研究を通じて、それらに対する理解を深めることに意欲的な人材、その有効利用を環境や人間心理との調和をはかりながら実現することに意欲的な人材、生物資源産業の振興や地域社会の発展に貢献できる高度専門技術者、研究者を目指す、高い志を有する人材を求めます。

入学者選抜の基本方針

博士前期（修士）課程 一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜では、いずれも TOEIC Listening & Reading 公開テストのスコア、学力試験、プレゼンテーションと面接および出願書類の内容を総合的に判定して行います。

1 募集人員

研究科	専攻	入学定員	選抜区分		
			一般選抜	社会人特別選抜	外国人留学生特別選抜
生物資源環境学 研究科	生産科学	8名	8名程度	若干名	若干名
	環境科学	8名	8名程度	若干名	若干名
	食品科学	8名	8名程度	若干名	若干名
	応用生命科学	8名	8名程度	若干名	若干名
合計		32名	32名程度	—	—

※入学定員には一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜のほかに、推薦入学選抜の募集人員が含まれます。

※出願にあたっては、あらかじめ志望する研究領域の担当教員と必ず連絡を取り、事前に研究内容等について十分に相談してください。担当教員の連絡先が不明な方は教務学生課までお問い合わせください。

※各専攻の研究領域・研究内容については7ページ以降を参照してください。

2 入学時期

本選抜試験の対象とする入学時期は「令和9年4月」です。ただし、〈社会人特別選抜〉に限り、「令和9年4月」または「令和8年10月」のいずれかを選択することができます。

3 出願資格

<一般選抜>

次の(1)～(9)のいずれかに該当する者とする。

<社会人特別選抜>

企業または団体等に在籍する者で、次の(1)～(8)のいずれかに該当する者とする。ただし、令和8年10月入学希望者は(1)～(8)において、令和9年3月31日を令和8年9月30日と読み替えるものとする。社会人特別選抜における社会人とは、大学院入学の前において、大学卒業後、1年以上の社会人経験を有する者とする。

<外国人留学生特別選抜>

在留資格が「留学」である者、または入学時に「留学」の在留資格を取得できる見込みの者で、次の(1)～(8)のいずれかに該当する者とする。

- (1) 大学を卒業した者および令和9年3月31日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者および令和9年3月31日までに学位授与見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者および令和9年3月31日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者および令和9年3月31日までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされる者に限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了した者および令和9年3月31日までに修了見込みの者
- (6) 専修学校の専門課程で文部科学大臣が別に指定するものを、文部科学大臣が定める日以降に修了した者および令和9年3月31日までに修了見込みの者
- (7) 昭和28年文部省告示第5号をもって文部科学大臣が指定した者

- (8) 本研究科において、個別の入学資格審査により大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和9年3月31日までに22歳に達する者
- (9) 令和9年3月31日までに、大学に3年以上在学した者および在学見込み者、または外国において学校教育における15年の教育課程を修了した者および修了見込み者の中で、所定の単位を優れた成績をもって修得した者と本研究科において認められた者

※出願資格の(8)、(9)により出願する者は、事前の出願資格審査が必要です(詳細は「10 出願等の留意事項」を参照)。

4 選抜方法

入学者の選抜は、TOEIC Listening & Reading 公開テストのスコア、学力試験、プレゼンテーションと面接および出願書類の内容を総合的に判定して行います。

5 試験科目等

試験科目	出題説明等
英語	出願期間最終日から2年以内(令和6年8月28日以降)に実施された英語 TOEIC Listening & Reading 公開テストを受験し、かつ出願期間中に Official Score Certificate (公式認定証) または Digital Official Score Certificate (デジタル公式認定証) を提出すること。 TOEIC L&R IP テスト、TOEIC S&W、TOEIC Speaking、TOEIC Writing、TOEIC Bridge Test のスコアは不可。
専門科目	生産科学専攻では、志望の〈研究分野〉からの出題を解答し、環境科学専攻、応用生命科学専攻では、志望の研究領域からの出題を解答するものとする。 食品科学専攻では、有機化学、物理化学、食品化学、微生物学、生化学から、基礎的な事項についてそれぞれ1問出題する。そのうち2問を選択し、解答すること。選択する科目については、出願時に申請するものとする。 (7ページ以降の研究領域・出題説明を参照)
プレゼンテーションと面接	生産科学専攻、環境科学専攻、応用生命科学専攻では、出願書類、プレゼンテーション、それらに関する質疑応答で評価する。食品科学専攻では、出願書類とそれらに関する質疑応答で評価する。

※外国人留学生特別選抜の受験生は、本学の用意する母国語⇄日本語の書籍辞書を使用することができます。
※プレゼンテーションのデータは、USBメモリで当日持参してください。

6 出願期間および選抜期日

出願期間	選抜期日
令和8年8月24日(月)～8月28日(金)	令和8年9月4日(金)

7 学力検査等の配点

生産科学専攻、環境科学専攻、応用生命科学専攻

英語	専門科目	プレゼンテーションと面接	合計
100	50	100	250

(注1) 英語は TOEIC Listening & Reading 公開テストの公式スコア 990 点満点を 100 点に換算します。
(注2) プレゼンテーションと面接の配点には出願書類の評価を含みます。

食品科学専攻

英語	専門科目	面接	合計
100	100	50	250

(注1) 英語は TOEIC Listening & Reading 公開テストの公式スコア 990 点満点を 100 点に換算します。
(注2) 面接の配点には出願書類の評価を含みます。

8 合格発表期日および入学手続期間

合格発表期日	入学手続期間
令和8年9月10日(木)	令和8年9月11日(金)～9月18日(金)

9 試験会場

石川県立大学
〒921-8836 石川県野々市市末松1丁目308番地

10 出願等の留意事項

- (1) 出願することができるのは、1つの専攻・研究領域に限ります。**出願にあたっては、あらかじめ志望する研究領域の担当教員と必ず連絡を取り、研究内容等について十分に相談してください。**
- (2) 出願資格(8)、(9)により出願を希望する者については、事前の出願資格審査が必要となります。必要書類を所定の期日までに本学教務学生課まで提出してください。

申請締切日

令和8年7月14日(火)

提出書類

- (1) 入学資格審査申請書・・・本学所定の様式
- (2) 志願理由書・・・・・・・・・・ //
- (3) 卒業・修了(見込)証明書・・・最終学歴の学校長が作成したものを提出してください。
出願資格(9)は不要。
- (4) 成績証明書・・・・・・・・・・最終学歴の学校長が作成し、厳封したものを提出してください。
- (5) 研究・業績の要旨・・・・・・・・研究・業績の要旨を提出してください。
出願資格(9)は不要。
- (6) 本学が個別に指示する書類

11 障害を有する等の者の事前協議

本学に入学を志願する者で、障害を有する等、受験上または修学上特別な配慮を必要とする者は、出願の前にあらかじめ本学教務学生課まで連絡し、相談してください。

相談締切日

令和8年8月7日(金)

提出書類

ア 申請書(次の事項について記載したもの)

- 出願を予定している専攻、研究領域
- 障害等の種類・程度
- 受験および修学に特別な配慮を希望する事項
- 大学等でとられていた特別措置
- 日常生活の状況
- その他参考となる事項

イ 医師の診断書

ウ その他参考書類(身体障害者手帳の写し等)

12 その他

入学手続者が入学定員に満たない場合には、一部または全部の専攻および研究領域において第2次募集を行います。第2次募集の実施に関しては、本学のホームページ（令和8年10月掲載予定）をご覧ください。本学教務学生課まで問い合わせください。

〔第2次募集を行う場合の日程(予定)〕

- 出願資格審査 令和8年11月10日(火)までに書類提出
- 障害を有する等の者の事前協議
令和9年1月4日(月)までに書類提出
- 出願期間 令和9年1月18日(月)から1月22日(金)
- 選抜期日 令和9年1月30日(土)
- 合格発表 令和9年2月12日(金)
- 入学手続期間 令和9年2月15日(月)から2月19日(金)

※第2次募集で利用できる TOEIC Listening & Reading 公開テストは、出願期間最終日から2年以内（令和7年1月22日以降）に受験し、かつ出願期間中に Official Score Certificate（公式認定証）または Digital Official Score Certificate（デジタル公式認定証）を提出したものの。

13 支援制度

(1) 授業料減免制度

経済的に困窮している学生を対象とした本学独自の減免制度を導入しています。申請時期や要件（収入基準や資産基準など）は本学ホームページをご覧ください。

<https://www.ishikawa-pu.ac.jp/graduate/guidance/>

(2) 日本学生支援機構奨学金

独立行政法人日本学生支援機構が実施する貸与型の奨学金です。成績優秀者には返還免除制度があります。

14 研究領域・出題説明

各担当教員の研究内容については、本学ホームページを参照ください。大学院・各専攻紹介のページからリンクがあります。(https://www.ishikawa-pu.ac.jp/)

(1) 生産科学専攻

研究領域	研究内容	担当教員<研究分野>
植物基礎	植物の栄養や環境要因に対する応答を、生理、遺伝学的に理解し、細胞および個体レベルにおける内因的な情報伝達や遺伝的過程を生化学的、分子生物学的に解析する。さらに、植物の生長等の制御機構や集団レベルでの動態を総合的に解明し、機能性、安全性、生産性の向上を目指す教育研究を行います。	教授 高木 宏樹 <植物育種学> 准教授 岡 義人 <植物分子生理学>
植物生産	食用作物、産業資源作物、飼料作物、園芸作物および有用資源植物の生態、生理、遺伝学的特性とそれらの環境応答を解明し、植物の有する物質生産機能を最大限に発現させるための新規生産技術の開発と生産体系の構築に関する研究教育を行い、一次生産に関わる理論の構築と技術確立し、地場産業の活性化を目指しています。また、作物生産予測モデルの開発と応用を通じて地域規模、地球規模での作物生産に関わる問題に取り組む教育研究を行います。	教授 塚口 直史 <作物生産学> 准教授 坂本 知昭 <作物生理学> 教授 村上 賢治 <蔬菜園芸学> 准教授 木下 貴文 <農場野菜園芸学> 准教授 今村 智弘 <花卉園芸学> 教授 高居 恵愛 <農場果樹園芸学>
動物生産	ほ乳類や、鳥類の生殖科学的な基礎研究を通して、発生と生殖の仕組みを明らかにするとともに最新の発生の工学的技術を用いた家畜等の改良、増殖や希少野生動物の増殖、および資源動物の飼育や栄養管理の基礎理論や技術、さらには飼料資源の特性やその有効利用に関連した栄養生理などに関する教育研究を行う。分子、細胞レベルから個体および集団レベルに至るまでの動物が持っている多様な特性を把握して、環境に調和した持続的な動物生産技術体系の構築に資することを目的とする教育研究を行います。	教授 橋谷田 豊 <動物繁殖学> 講師 浅野 桂吾 <動物栄養学> 講師 佐々木 恵亮 <動物育種学>
生物資源管理	農業生産を取り巻く資源上の課題に対して、害虫や病害の防除、資源の効率的利用、生産システムの構築といった観点から新たな解決法を見出すことを目指し、社会のニーズを踏まえた食料生産の安定と持続可能な資源利用を図るための科学的知識と実践的技術を追及する。農産物の生産に関わる自然資源の利用・保全と社会経済条件を、生物学・経済学の視点から多角的にとらえ、県の農業の持続可能性に貢献できる学際実践人材の育成を目的とした教育研究を行います。	教授 弘中 満太郎 <応用昆虫学> 准教授 高原 浩之 <植物病管理学> 准教授 住本 雅洋 <生物資源経済学>

専攻	出題説明
生産科学	専門科目は、志望する研究領域の担当教員の研究分野からの出題について解答すること。

(2) 環境科学専攻

研究領域	研究内容	担当教員<研究分野>
田園資源活用	大気、土壌、水など田園を取り巻く環境を形成する物理・化学量のフラックスを把握・評価し、人の生活と生産にとって健全な大気・水・土壌環境の形成と自然との調和を図るための技術の総合化やシステム化を通じて低炭素社会の構築に関する教育・研究を行います。	教授 瀧本 裕士 <環境利水学> 准教授 皆巳 幸也 <大気環境学> 准教授 百瀬 年彦 <農地環境学> 准教授 勝見 尚也 <土壌環境学>
生物環境保全	豊かな自然環境の保全と人と自然が共生できる持続的社会的実現に向け、植物、動物、微生物の生態、特に植物と動物の相互作用、里地・里山における生物多様性の保全とその維持機構の解明、微生物・植物間の相互作用の分子生物学的解明、野生動物の保全と被害管理のための教育・研究を行います。	准教授 東出 大志 <動物生態学> 准教授 北村 俊平 <植物生態学> 教授 田中 栄爾 <微生物生態学>
水環境管理	持続可能な食料生産や農業・農村の多面的機能の発揮のために、人の安全、景観及び生態系に配慮した農業水利施設の保全と管理、並びに自然災害、気候変動及び人間活動による環境負荷に対して強くてしなやかな地域水環境システムの構築と管理に関する農業農村工学の教育・研究を行います。	教授 一恩 英二は 令和9年3月31日をもって退職予定 <地域水工学> 教授 森 丈久 <地域施設学> 准教授 藤原 洋一 <地域水環境学> 准教授 長野 峻介 <水利システム学>
里山里海創生	人と自然が共生し、安全で活力と魅力にあふれる地域社会を形成するため、リモートセンシングや地理情報システム（GIS）などを駆使し、里山里海創生に関わる環境情報の収集と解析、生態系を基盤とした防災・減災技術の開発や社会資本整備のための技術開発、地域再生のための計画理論・法制度・実践手法などの教育・研究を行います。	教授 大丸 裕武は 令和9年3月31日をもって退職予定 <流域環境学> 准教授 山下 良平 <地域計画学> 准教授 上野 裕介 <緑地環境学>

専攻	出題説明
環境科学	専門科目は、志望する研究領域に関する3問ないし4問の出題のうち、2問を選択し、解答すること。

(3) 食品科学専攻

研究領域	研究内容	担当教員<研究分野>
食品基礎	生化学および物理化学を基盤として、食品構成成分としての生体低分子、高分子について研究し、その成果を安全で健康促進に役立つ食品開発、設計に応用するための教育研究を行います。また、食品流通や食品産業などから構成される食品供給システムの特徴と課題を、6次産業化や地域ブランド化にも着目しながらマーケティング論、流通論などを活用して理解・解明し、その成果を食と農の効果的な結びつき方に応用するための教育研究を行います。	教授 小椋 賢治 <生体分子機能学> 教授 関口 光広 <食品分析学> 准教授 吉城 由美子 <食品栄養学> 助教 小関 喬平 <食品化学>
食品製造	県産を含めた内外の食品材料の化学的・物理的特性を解明・理解すると共に、食品加工における様々な単位操作の原理と応用に関する知見を基に、既存の食品加工法の改良、生体触媒を利用した新たな食品素材や食品の創出、新しい原理に基づく加工法の創出、食品材料、未利用資源の有効利用、鮮度保持や品質保持などの流通保全技術について教育研究を行い、当分野の研究開発をリードする人材の育成を図ります。	教授 長野 隆男 <食品製造開発学> 准教授 島 元啓 <食品製造工学> 准教授 中口 義次 <食品管理学> 教授 小柳 喬 <食品微生物学>
食品加工	食品の加工・調理過程における化学的および物理化学的变化を詳細に調査し、これらの工程が最終製品の品質などに及ぼす影響を科学的に解明します。また、農作物をはじめとする多様な食品素材を構成する成分の存在量や物理的特性を明らかにするとともに、加工や流通の過程で生じる調理学的変化を体系的に研究し、そのメカニズムの解明を目指します。これらの研究を通じて、食品素材の特性に適した最適な加工技術と調理技術を確立し、食品産業への貢献を目指します。	教授 本多 裕司 <食品素材科学> 准教授 古澤 和也 <食品加工学> 准教授 伊藤 聖子 <調理科学>
食品機能	食品および食品成分が生理機能に与える影響を科学的に解明するため、培養細胞や実験動物を用いて、生化学的および分子生物学的手法を駆使した研究を行います。特に、食品成分が代謝や免疫系、炎症応答などに及ぼす影響を詳細に解析し、その作用メカニズムを明らかにすることを目指します。また、これらの知見を基に、特定の食品成分が疾病予防や健康維持にどのように寄与するかを評価し、科学的根拠に基づいた機能性食品の開発に取り組むことで、食品産業や健康・栄養分野に貢献します。	教授 松本 健司 <食品機能科学> 准教授 西本 壯吾 <食品衛生学> 准教授 東村 泰希 <食品生化学>

専攻	出題説明
食品科学	専門科目は、有機化学、物理化学、食品化学、微生物学、生化学から、基礎的な事項についてそれぞれ1問出題する。そのうち2問を選択し、解答すること。選択する科目は、出願時に申請すること。

(4) 応用生命科学専攻

研究領域	研究内容	担当教員<研究分野>
遺伝子機能	植物が持つ無限の可能性の解明と利用に遺伝子レベルから取り組んでおり、植物特有の有用物質の生合成遺伝子の構造や機能およびその生産機構を解明し、付加価値の高い機能性物質を生産する植物を創生するほか、植物における有用タンパク質の効率生産に向けた遺伝子導入ベクターの開発研究も行います。これらを通して、バイオテクノロジーに関する一流の研究者や技術者の育成を目指します。	教授 森 正之 <植物遺伝子工学> 准教授 竹村 美保 <植物遺伝子工学> 准教授 宮島 俊介 <植物発生学> 講師 中谷内 修 <植物遺伝子工学>
植物細胞工学	イネ等の実用植物(作物)やモデル植物を主な研究対象として、組織培養や遺伝子組換え、ゲノム編集等の技術を駆使し、食料問題、栄養問題、持続的な農業環境等の維持やエネルギー供給などの複合的な問題に対処する育種素材の研究開発と、その基盤となる分子メカニズムの研究を行います。また、生物工学的手法を用いて、人間の暮らしに潤いを与える植物の機能改変に関する研究を行います。	教授 小林 高範 <植物細胞工学> 准教授 濱田 達朗 <植物生理学>
微生物機能	微生物は、多様な環境に適応し、さまざまな能力を発揮します。その機構を遺伝子や酵素などの分子レベルで解明し、それらの構造と機能を解析します。さらに、その成果を活用して、遺伝子や酵素機能の高度化を行い、多糖や複合糖質、植物アルカロイドなどの有用物質の生産などの応用開発研究を行います。また、乳酸菌などの有用菌の生理機能を解析して応用に資する研究を行います。	教授 南 博道 <応用微生物学> 准教授 松崎 千秋 <応用微生物学> 准教授 村木 則文 <応用微生物学>
環境生物システム	廃棄物の発生抑制やリサイクル、そしてライフスタイルを考え、循環型社会のあり方について研究を行います。また、生物工学的、環境微生物学的、および代謝工学的手法による水質・土壌・大気の浄化、草木系および海洋バイオマス有効利用などの研究開発を行います。微生物を活用した環境浄化技術やバイオエネルギー(水素、メタン、ディーゼル燃料、ジェット燃料)や高付加価値化合物の生産の研究、さらに様々な環境を想定した環境浄化のシミュレーションも行います。	教授 河井 重幸 <環境微生物学> 准教授 馬場 保徳 <環境微生物学> 講師 楠部 孝誠 <環境システム工学>

専攻	出題説明
応用生命科学	専門科目は、志望する研究領域からの出題について解答すること。

15 学生募集要項の配付

出願手続の詳細は、大学院学生募集要項で必ず確認してください。

学生募集要項の配付は、令和8年7月から行います。請求方法は、本学での交付か郵送での請求となります。郵送を希望する場合は、要項名(前期課程・後期課程の別)を明記し、返送用として270円分の切手と角形2号封筒(A4サイズ入、返送先を記載)を同封した郵便を、下記問い合わせ先まで送付ください。

＝問い合わせ先＝ 石川県立大学教務学生課
〒921-8836 石川県野々市市末松1丁目308番地
TEL 076-227-7408
FAX 076-227-7410
E-mail kyoumu@ishikawa-pu.ac.jp